

資料3 西の湖の漁場環境モニタリング結果

久米弘人・大山明彦・鈴木隆夫・孝橋賢一

1. 目的

西の湖では 2006 年にオオカナダモが減少してから真珠漁場としての復活が期待されている。水草の繁茂状況を監視するとともに、貝類の現状を把握することを目的に調査した。

2. 方法

2024 年 4 月 18 日、5 月 24 日、6 月 21 日、7 月 19 日、8 月 23 日、9 月 24 日、10 月 21 日、11 月 20 日、12 月 18 日、2025 年 1 月 24 日、2 月 20 日、3 月 12 日に西の湖内の 3 定点（図 1）（湾奥部 st.1、湖中央部 st.8、流出部 st.11）で水質を測定した。また、5 月、8 月、11 月、2 月の調査時には、西の湖内の 18 定点（図 1）で幅 20cm の鋤簾を 2m 搔いて採取された水草と貝類の湿重量を計測した。2024 年 9 月 25 日～26 日には、図 1 の魚類採捕調査地点 1 か所において調査用小型定置網 1 統を一昼夜設置し、採捕された魚類と甲殻類の種類と個体数、重量を計測した。2024 年 10 月 21 日の調査時には、3 定点（st.1、st.8、st.11）で底質をエクマンバージ採泥器で採取し、底質表層中の灼熱減量、全硫化物量を測定した。2024 年 8 月 23 日と 12 月 18 日には、電磁流向流速計（JFE アドバンテック AEM-USB）を湖

中央部 st.8 の湖底から約 40cm の位置にそれぞれ約 1 時間、4 時間設置し、5 秒間隔で流速を測定した。

3. 結果

表 1 水質

表 2 水草（沈水植物）と貝類

表 3 魚類

表 4 底質

表 5 流速

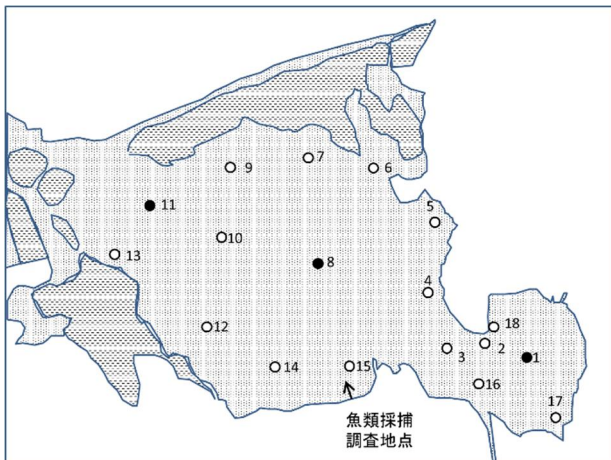


図 1 調査地点